

第4回総合計画等評価委員会 要旨

1. 日 時 令和5年7月29日(土) 午前9時30分~12時00分
2. 場 所 松阪市産業振興センター 3階研修ホール
3. 出席者 青木信子委員、岩崎恭典委員、小野崎耕平委員、川口淳委員、佐藤祐司委員、塚本明委員、志田幸雄委員、平岡直人委員、藤田素弘委員、松井信幸委員、村林守委員

≪総合計画≫

【政策1 輝く子どもたち】

- ・いま課題になっている親育てや支援が必要な子どもたちへ寄り添いに取り組むことは非常に重要。特に具体的な行動を示唆するペアレントトレーニングは、安心して子育てをするために期待できる内容と思う。
- ・待機児童数が減っているのは、預けやすい環境が充実していると評価できる。ただますます少子化が進み、共働きや子育てしにくい家庭が増え、条件なしに預けたいという意見もあるので、そうした情報を集めながら今後の目標を立てていくべきと思う。
- ・子育て支援センターを利用する家庭は減りつつあるが、あることを知らなかったという声もあるので広報をしっかりとする必要がある。市の広報だけでなく、最近はインスタなどのSNSの情報が早く、若いお母さんたちのためにいろんな情報ツールを考えていく必要がある。
- ・「1日10分以上読書をしている割合」が目標値より低い。長いスパンは必要だが、就学前の子どもたちに視点を当てるのも重要かと思う。未就学の保育園や幼稚園での絵本をどのように家庭につなげていくか、どのように楽しさを伝えるかということに力を入れていく必要がある。
- ・明らかに読書をしている子どもの方が、学力状況調査の結果が良い。各部局連携して小さい頃からの読書週間をつけることも、次期総合計画に取り入れてはどうか。

【政策2 いつまでもいきいきと】

- ・県内で初めての「エンディングサポート相談窓口」について。これからこのような相談は増加傾向にあるため素晴らしい取り組みだと思う。
- ・健康づくりの推進について、コロナ禍で健診の受診率が低くなり、評価が星2つだったが、健診の期間を延長するなど工夫をしており、むしろ健闘している。

- ・コロナウイルス対策については、医師会と市が協力しながら進められた。星4つ以上でも良いのではないかと。
- ・大腸がん検診受診率は低いので、今後抜本的に対策を考えて欲しい。特にナッジ理論を新しく用いるのは着眼点も良い。
- ・健診の受診控えについては全国の自治体が同じ状況で、パンデミックのなかで健診をすることが難しい状況だった。そのため評価が比較的辛口に思える。
- ・糖尿病性腎症重症化予防に関して、必ずしも予防が医療費抑制や削減につながるとは限らず、効果が出るのにもかなり時間がかかるため、評価の際には指標の置き方を検討する必要がある。
- ・地域包括ケア体制構築には地域共生社会がキーポイントとなる。それを地域でどう作り上げていくかが大きな課題。福祉まるごと相談室は、高齢者のためのものを全世代的に広げたものなので、次期総合計画に載せていく必要がある。

【政策3 活力ある産業】

- ・農地利用最適化推進委員へのタブレット端末の納入遅れについてはやむを得ない。重点取り組みで「農業者年金の加入促進活動による新規加入者の確保」と「農業の担い手の新規参入者の確保」については、大幅にクリアしているので評価できる。
- ・林業の振興について。間伐による森林整備はよく取り組んでいるが、未利用間伐材の木質バイオマス活用量については目標未達成なので改善を図って欲しい。
- ・水産業の振興について。総水揚金額の目標は達成し、ガザミの漁獲量も増加している。これは過去からガザミの放流の成果が出ているとして評価して良いと思う。漁港保全事業の進捗や、稚鮎の放流なども評価できる。
- ・企業誘致・連携の推進について。数値目標の「企業立地件数」や「市内事業者に対する連携支援件数」は良い結果で、特に省エネの最適化診断は、県下で松阪市だけが取り組んでいる事業で大いに評価できる。

【政策4 人も地域も頑張る力】

・住民自治協議会などで、地域で関心が高い防災と安全の話など、様々な課題について「こうしたい」という場合に、各課に跨る話を一旦地域でまとめるというやり方もあり、次の総合計画では明確に位置付けても良いのではないか。

・「文化の振興」では、収蔵庫の整備について特に評価したい。こうした問題は地味で市民にも評価されにくいだが、長期的には文化財の保存と活用には最も必要なことで、高く評価されるべき。

・コロナの事もあり、文化財施設の来館者が目標値に達していないのは仕方がない部分があるが、市内の小中学生の文化施設への認知度が低いということを重視して欲しい。市内の児童生徒については入館料を無料にするなど、単に来館者数の増加ではなく、意識的に取り組んではどうか。

・「人権尊重・多様性社会の推進」の数値目標の実績値の低さが気になる。R5に松阪市の人権施策基本方針が改定されるので見守りたい。

・みえ松阪マラソンの開催ができたことは良かった。参加したランナーの評価が数値目標となっているが、市民が参加して市として盛り上がったというところを積極的に評価するべき。

・三井高利の生誕400年、越後屋創業350年記念事業については大いに期待しているが、少し宣伝が不足しているのではないか。

・小中学校の教育面で、図書の利用が冊数においても読書時間においても目標値に大きく及ばないなど、文化的関心がやや低いのは気になる。

【政策5 安全・安心な生活】

・「防災・危機管理対策の充実」について。R4はBCP会議をしっかりと行い、BCP体制を作ることができた。今年度以降もBCMを行っていくとのことで評価できる。

・R4まではコロナ禍で、防災の啓発活動がままならなかったが、ここから急速に活動が増えると予想されるため、それほど心配は要らないのではないか。

・松阪市消防本部ではドローンの導入に非常に積極的で評価が高い。非常に役に立つ道具なのでぜひこのまま続けて欲しい。中小規模災害に役に立つし、危機管理部門と連携するためにも使える。

・流域治水は河川管理者だけではなく、農水担当、上下水担当と複数が関係し、河川部局だけでなく、治水能力があがった取組事例など、全体を見える化することで市民の意識が変わる。部局をまたいだ効果の評価について少し視野に入れて欲しい。

【政策6 快適な生活】

・地域公共交通について。R4は公共交通計画の策定ができず、公共交通機関の年間利用回数あまり伸びなかったが、新しく路線バス無料運賃デーを開催して多くの人を集めることで利用促進を行い様々なデータを取るなど今後期待が持てるが、よく考えて進めて欲しい。

・交通安全対策の充実について。区画線を引くなど様々な対策をとっているが、結果としてワースト4位で死傷者数が増えている。数値に反映されにくい部分で、ある程度致し方ないが、原因の分析と対策を行って今後活かして欲しい。

・道路長寿命化で橋りょうの点検を結構しているが、これから財政的に大きな重しにならないか危惧される。現在の点検の効果検証もしながら、今後どう対策を進めるのか、財政的にどの程度効果があがるのかという評価も必要です。

【政策7 市民のための市役所】

・以前の部局長の執行宣言と比べ、だいぶ分かりやすくなったと思う。R4に何をしようとしていたのか、それを実行できたのか、成果が出たと考えているのか、そうしたことが明確に書いてあり、随分わかりやすくなった。

・部局長の執行宣言の自己評価の部分は、表現のばらつきが若干あるが良いのではないと思う。

・他の政策でもそうだが、政策7「行政サービスの充実」では特に、複数の部局長がコメントをしていることと、「引きこもり相談窓口の設置」など直接的な「行政サービスの充実」の取り組みが掲載されていないため評価しにくい。政策の目標に対して責任を持つ「主管部長制度」「他部局注文制度」などで、主管部長は他部局の取り組みも総括してコメントすることを検討してはどうか。

・政策を担当する各部局を横で繋いでいく仕組みを次の総合計画でどのように実現していくか、それが大きな課題として出てきたのではないか。

・評価システムの政策の達成度とその評価は概ね相関しており、施策評価システムは一定程度機能していると言える。一方でさまざまな意見もあるので、その点は今後も引き続きリファインを重ねていく必要がある。

・評価システムの結果について。市で行っている市民意識調査の「事業に対する満足度と重要度」をそれぞれ横軸、縦軸にとってプロットした表は、横軸を満足度から達成度に、縦軸を重要度から寄与度に置き換えるとおよそ同じになる。施策の重要度に対する判断としては、市民意識調査と併せて活用してはどうか。

・評価システムの結果の活用方法については、達成度や寄与度による一律のやり方ではないが、予算を含めた人的資源の投入の判断に、今後反映することを検討すべきと思う。

・評価委員会についてそれぞれの専門分野の意見が主体となっているが、実際に生活している市民として様々な分野へ意見を言えるような雰囲気にして欲しい。

《地方創生総合戦略 ※重複掲載》

【Ⅰ. 定住促進】

・コロナの事もあり、文化財施設の来館者が目標値に達していないのは仕方がない部分があるが、市内の小中学生の文化施設への認知度が低いということを重視して欲しい。市内の児童生徒については入館料を無料にするなど、単に来館者数の増加ではなく、意識的に取り組んではどうか。

【Ⅱ. 少子化対策】

・いま課題になっている親育てや支援が必要な子どもたちへ寄り添いに取り組むことは非常に重要。特に具体的な行動を示唆するペアレントトレーニングは、安心して子育てをするために期待できる内容と思う。

・待機児童数が減っているのは、預けやすい環境が充実していると評価できる。ただますます少子化が進み、共働きや子育てしにくい家庭が増え、条件なしに預けたいという意見もあるので、そうした情報を集めながら今後の目標を立てていくべきと思う。

・子育て支援センターを利用する家庭は減りつつあるが、あることを知らなかったという声もあるので広報をしっかりする必要がある。市の広報だけでなく、最近はインスタなどの SNS の

情報が早く、若いお母さんたちのためにいろんな情報ツールを考えていく必要がある。

・「1日10分以上読書をしている割合」が目標値より低い。長いスパンは必要だが、就学前の子どもたちに視点を当てるのも重要かと思う。未就学の保育園や幼稚園での絵本をどのように家庭につなげていくか、どのように楽しさを伝えるかということに力を入れていく必要がある。

・明らかに読書をしている子どもの方が、学力状況調査の結果が良い。各部局連携して小さい頃からの読書週間をつけることも、次期総合計画に取り入れてはどうか。

・コロナの事もあり、文化財施設の来館者が目標値に達していないのは仕方がない部分があるが、市内の小中学生の文化施設への認知度が低いということを重視して欲しい。市内の児童生徒については入館料を無料にするなど、単に来館者数の増加ではなく、意識的に取り組んではどうか。

・小中学校の教育面で、図書の利用が冊数においても読書時間においても目標値に大きく及ばないなど、文化的関心がやや低いのは気になる。

【Ⅲ. 雇用創出】

・林業の振興について。間伐による森林整備はよく取り組んでいるが、未利用間伐材の木質バイオマス活用量については目標未達成なので改善を図って欲しい。

・水産業の振興について。総水揚金額の目標は達成し、ガザミの漁獲量も増加している。これは過去からガザミの放流の成果が出ているとして評価して良いと思う。漁港保全事業の進捗や、稚鮎の放流なども評価できる。

・企業誘致・連携の推進について。数値目標の「企業立地件数」や「市内事業者に対する連携支援件数」は良い結果で、特に省エネの最適化診断は、県下で松阪市だけが取り組んでいる事業で大いに評価できる。

【Ⅳ. 地域づくり】

・住民自治協議会などで、地域で関心が高い防災と安全の話など、様々な課題について「こうしたい」という場合に、各課に跨る話を一旦地域でまとめるというやり方もあり、次の総合計画では明確に位置付けても良いのではないか。

・みえ松阪マラソンの開催ができたことは良かった。参加したランナーの評価が数値目標となっているが、市民が参加して市として盛り上がったというところを積極的に評価すべき。

・「防災・危機管理対策の充実」について。R4はBCP会議をしっかりと行い、BCP体制を作ることができた。今年度以降もBCMを行っていくとのことで評価できる。

・R4まではコロナ禍で、防災の啓発活動がままならなかったが、ここから急速に活動が増えると思えるため、それほど心配は要らないのではないかと。

・流域治水は河川管理者だけではなく、農水担当、上下水担当と複数が関係し、河川部局だけでなく、治水能力があがった取組事例など、全体を見える化することで市民の意識が変わる。部局をまたいだ効果の評価について少し視野に入れて欲しい。

・交通安全対策の充実について。区画線を引くなど様々な対策をとっているが、結果としてワースト4位で死傷者数が増えている。数値に反映されにくい部分で、ある程度致し方ないが、原因の分析と対策を行って今後活かして欲しい。